

Ⅲ まとめ

1 喫煙について

(1) 喫煙経験

前回調査時（平成 28 年度）と比較して、喫煙経験率は 1.1～2.2%と全体的に減少傾向だが、中学 1 年生の女子で 0.2 ポイント増加した。

初めての喫煙経験学年は、中学 1 年生では、男女とも小学 4 年生以下が最も高くなっており、喫煙防止のための取組は早い時期から講じる必要がある。

初めてのたばこを吸ったきっかけは「好奇心」が多く、「親のすすめ」、「友達や仲間のおすすめ」等周囲の者からのすすめも多くなっている。

(2) 現在の喫煙状況

前回調査時（平成 28 年度）と比較して、現在たばこを吸っていると回答した者の割合は中学 1 年生の女子で増加し、「毎日喫煙」と「時々喫煙」を合わせた現在喫煙率は、中学 1 年生の男子 0.0%、女子 0.1%、高校 1 年生の男子 0.3%、女子 0.1%で、たばこを現在吸っていると回答した者は、全体で 12 人であった。

(3) たばこの主な入手先・たばこを吸う場所

現在喫煙をしている者がたばこを主に入手する先は「友達から」、「コンビニやスーパー、たばこ屋」が多かった。

また、たばこを吸う場所は「自分の部屋」、「公園」が多かった。

(4) 周囲の者の喫煙状況

家族の喫煙状況では、喫煙している家族は父親が最も多く、34.8%～37.7%だった。

前回調査時（平成 28 年度）に比べて、喫煙している家族は高校 1 年生の男子の「父親」、中学 1 年生の女子、高校 1 年生の男子の「祖父母」で割合が増加したが、これら以外の家族は減少している。

友達の喫煙状況では、前回調査時に比べて、友だちの中で「たばこを吸っている人がいる」と回答した者の割合は、全学年・男女で減少しており、高校 1 年生は男女とも前回 10%以上であったが今回 5%未満に減少している。

(5) たばこの購入について

前回調査時（平成 28 年度）と比較して、頼まれてたばこを購入したことがある生徒の割合は減少した。購入依頼者は「親」と回答した者の割合が最も高くなっている。

年齢のためにたばこ売ってもらえなかった経験を持つ者は 7%いるが、「いつでも売ってもらえた」と回答している者も 0.3%いた。販売時の年齢確認等、未成年者へたばこを販売しない取組が今後も求められる。

(6) テレビでの喫煙場面について

テレビでの喫煙場面について、全ての学年・男女で「かっこいい」と回答した者よりも「かっこ悪い」と回答した者の割合が高くなっている。

喫煙場面の放送については、中学1年生よりも高校1年生は「映してもかまわない」と回答している者の割合が高く、「映すべきではない」と回答した者の割合が低い。

(7) たばこについての親の意見

たばこについての親の意見は「絶対吸うな」、「特に何も言わない」と回答した者の割合が高くなっている。

(8) たばこの害・受動喫煙の害の認識

「たばこを吸うと害があると思う」と回答した者の割合は97.2%~99.4%であり、ほとんどの生徒がたばこの害を認識している。

前回調査時（平成28年度）と比較して、「大いに害がある」と回答した者の割合が、中学1年生の男女で減少している。

「人が吸っているたばこの煙を吸うと害があると思う」と回答した者の割合は約94.7%~99.0%であり、ほとんどの生徒が受動喫煙の害も認識している。

前回調査時（平成28年度）と比較して、「大いに害がある」と回答した者の割合が高校1年生の女子以外で減少している。

(9) 喫煙の依存性についての認識

たばこを吸い始めるとやめるのは「難しい」と回答した者の割合は74.5%~87.0%で、多くの生徒はたばこの依存性を認識している。

前回調査時（平成28年度）と比較すると、中学1年生の男女で「難しい」と回答する割合が減少している。

(10) 親の喫煙に対する思い

自分の親がタバコを吸うことについて、「吸って欲しくない」と回答した者の割合は、前回調査時（平成28年度）と比較して、高校1年生の男子は増加したが、それ以外は減少している。

中学1年生、高校1年生ともに、男子よりも女子の方が「吸ってほしくない」と回答する割合が高い。

(11) 将来の喫煙に対する思い

将来の喫煙について、「絶対吸わない」と回答した者の割合は67.0%~79.1%で、前回調査時（平成28年度）と比較すると、高校1年生の男子は増加したが、それ以外は減少している。

中学1年生、高校1年生ともに、男子よりも女子の方が「絶対吸わない」と回答した者の割合が高い。

(12) 喫煙防止教育について

喫煙防止教育は、中学1年生の70%以上は小学校高学年で、高校1年生は小学校高学年で50%以上、中学校で70%以上受けたと回答している。

喫煙の状況やたばこの害に関する認識等の状況からも、喫煙防止教育の定着が図られ、その効果が伺える。

初めて喫煙を経験したのが「小学校4年生以下」と回答した喫煙経験者が多いことから、それ以前の早い時期からの喫煙防止に関する効果的な取組が望まれる。

2 飲酒について

(1) 飲酒経験

前回調査時（平成28年度）と比較して、飲酒経験率は11.9%~20.8%と全体的に減少した。

飲酒の機会は「冠婚葬祭」、「家族と食事時」が多く、初めて飲酒をしたきっかけは「その他」以外では「好奇心」が最も多く、次いで「親やその他家族のすすめ」であることから、「冠婚葬祭」や「家族との食事」の際に親など家族からすすめられ、好奇心で飲酒を経験したことが伺われる。

(2) 現在の飲酒状況

前回調査時（平成28年度）と比較して、月1回以上飲酒している者の割合は、全ての学年・男女で減少した。

現在月1回以上飲酒している者は、中学1年生は男子0.8%、女子0.5%、高校1年生は男子1.7%、女子1.5%であった。

(3) お酒の主な入手先・購入について

飲酒経験者のお酒の主な入手先は「家にあるお酒」と回答した者が最も多い。

また、コンビニやスーパー、酒店で入手すると回答した者が15.1%~23.3%いることから、店員による販売時の年齢確認等、未成年者へお酒を販売しない取組が今後求められる。

(4) 親からの飲酒のすすめ

父親又は母親からの飲酒をすすめられたことがある中学1年生は4.7%~4.9%、高校1年生は9.0%~9.4%である。未成年者の飲酒防止については、保護者への啓発も必要である。

(5) 周囲の者の飲酒

前回調査時（平成28年度）と比較して、周囲の者の飲酒状況は、大きな変化は見られない。

(6) 飲酒の害の認識

前回調査時（平成28年度）比較して、「大いに害があると思う」と回答した者の割合が中学1年生の男女で減少し、高校1年生の男女で増加した。未成年者の飲酒の害に対する教育が引き続き求められる。